

成田市教育委員会会議事録

令和7年1月成田市教育委員会会議定例会

期 日 令和7年1月23日 開会：午前10時00分 閉会：午前10時59分

会 場 成田市役所6階 中会議室

教育長及び出席委員

教 育 長	日 暮 美智子
委 員 (教育長職務代理者)	高 山 勇
委 員	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗
委 員	岡 本 秀 彦

出席職員

教育部長	小 川 雅 彦
教育部担当次長	藤 崎 清
教育総務課長	川名部 康 文
学校施設課長	大須賀 一 夫
学務課長	井 上 功太郎
学務課係長	菅 澤 武 史
教育指導課長	三 村 洋 一
生涯学習課長	野 村 貴 子
学校給食センター所長	福 島 由 規
公民館長	菅 井 良 江
図書館長	高 仲 浩 一
教育総務課長補佐 (書記)	神 崎 裕 一

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言

2. 署名委員の指名 高山委員、岡本委員

3. 前回議事録の承認

4. 教育長報告

主催事業等

○1月11日 令和7年成田市成人式について

成田国際空港第2旅客ターミナルビル前中央広場を会場に、晴天の中開催できました。教育委員の皆様にも列席いただき、ありがとうございました。対象者1,574名のうち、1,057名の参加となりました。

実行委員7名が式典を進行し、来賓からのお祝いとともに、二十歳の参加者とあまり年の差がない航空関係会社に勤務する若い方々のご挨拶がありました。また、「はたちの意見」は男性2人から発表していただき、どちらも自分の進路を真つすぐ見据え、懸命に努力されている姿が伺え、気持ちがあたたかくなりました。

式典の運営に中心となって携わった生涯学習課職員をはじめ教育委員会職員、そして他部署から協力の総勢64名の職員の皆さんに感謝いたします。

○1月14日 令和6年度第2回成田市「部活動の地域移行」に関する協議会について

部活動の地域移行につきましては、現在は「第2期モデル事業期間」となります。第2期の期間は昨年9月より今年8月までで、各中学校を拠点に、1つずつクラブを立ち上げ、土曜日なし日曜日に活動しています。

今回の協議会では、来るべき令和7年9月から令和8年3月までの「第3期モデル事業期間」についての見通しを事務局より、丁寧に説明させていただきました。

詳細につきましては、来月の教育委員会議で報告させていただきます。

○1月17日 令和6年度第1回成田市生涯学習推進協議会について

年1度の開催で、今回が第1回目となり、議事は会長及び副会長の選出より始まりました。

会長には成田市社会教育委員委員長の日暮健氏を、副会長には明治大学教授の井田正道氏が

選出されました。

議事の2つ目として「第3次成田市生涯学習推進計画の進捗状況について」、3つ目として、「成田市教育振興基本計画の策定について」が取り上げられました。

委員からは、各事業や行事についての参加状況や、施設等の改修計画の有無等についての質問がされ、また各事業への意見を頂戴するなど、活発な会となりました。

なお、「第3次成田市生涯学習推進計画の進捗状況」について、本定例会議の報告事項として、担当課長より後ほど説明させていただきます。

○1月18日 成田市書き初め大会2025について

重兵衛スポーツフィールド中台体育館アリーナで開催されました、成田市内小中学生、近隣他市町小中学生、計144名が参加しました。第一部では、それぞれの学年の課題に真剣に取り組み、皆、堂々としたのびやかな文字に仕上げました。

第二部では、横幅5メートルの用紙に、それぞれが目標を書きました。学習や運動、書道の上達への目標、「挑戦、一生懸命、元気、笑顔」などの日頃心がけようとする目標、また中学3年生は進路実現や高校生活の思いなど、どれも発達の段階にあった目標でした。

小泉市長が「巳年」と筆入れをした後、皆の目標が書かれた大きな用紙の前で、市長やうなりくんとともに笑顔での写真撮影となりました。

文化国際課が主となり行われた行事ですが、前日の準備を含め、多くの教育委員会の職員が関わり、行事の成功に寄与しました。

その他

○12月19日 叙勲伝達について

高齢者叙勲をお届けするため、人見孝先生のご自宅を訪問いたしました。人見先生は理科教員として昭栄中学校や佐原中学校などの勤務を経たのち、大栄町立大栄中学校、下総町立下総中学校等の教頭を歴任、そして平成6年には下総町立小御門小学校の校長に昇任され、平成9年3月にご退職されました。

佐原中学校時代の教え子が教育委員会に勤務しており、当時の様子を聞きましたところ、穏やかな印象が記憶に残っている先生であるとのことでした。お届けにあがると、柔和な表情で遠くからの来訪を労ってくださいました。

○12月19日 千葉ロッテマリーンズジュニア「NPB12球団ジュニアトーナメント」
出場激励会について

7月末に開催された千葉ロッテマリーンズジュニアチーム選考会で、市内から藤崎煌生選手と蓮見悠選手が合格し、千葉ロッテマリーンズジュニアチームのメンバーに選出されました。750名中16人という狭き門だそうです。

これにより、コナミカップの出場が決定したことから激励会を開催いたしました。

○12月19日 下総高校自動車部「本田宗一郎杯Hondaエコマイレージ2024全国大会」優勝報告会について

下総高校自動車部がカーボンニュートラル部門、ガソリン部門の両方で優勝に輝き、報告に来庁しました。それぞれ1リットルで1,800km以上走るとのことです。

12名の選手のうち5名が成田市立中学校、義務教育学校出身で、西中出身の藤本寛司さんが部長として、立派に挨拶をしました。

○12月19日 令和6年度成田市・国際医療福祉大学地域連携推進協議会について

成田市からは連携事業の進捗について、国際医療福祉大学からは大学や成田病院の現況等について、報告がなされました。

次に、それぞれから今後についての事項が示されましたが、教育委員会関連では、成田市から新規連携事業の一つとして、「教職員向け研修会の実施」、特に教職員のメンタルヘルス等健康保持のための研修会への講師派遣を依頼しました。

○12月23日 令和6年度千葉県学校健康教育功労者表彰について

学校歯科医の永井和広先生が昨年11月千葉県教育功労者表彰を受章されたことを受け、成田市学校保健会からのお祝いをお届けしました。永井先生は、昭和60年に神宮寺小学校の学校歯科医に就任以来、現在まで多くの児童生徒の口腔内の健康維持や健康管理にご尽力いただき、現在は西中学校と加良部小学校の学校歯科医を務めていただいています。

お届けにいった際も、玄関口で待ち受けてくださり、丁寧なご挨拶をいただき、穏やかなお人柄を感じました。

○1月7日 宮崎県日南市行政視察について

日南市議会の議員2名が来庁しました。日南市は平成21年に1市2町が合併し、人口は4

8,000人、マンゴーやスイートピー生産、かつお一本釣りなどの第一次産業が中心の街とのこと、成田市の倍ほどの面積のうち、78%が山林という中に、小学校10校中学校6校があり、小学校のうち5校は小規模とのことでした。

本題は「小規模特認校制度について」でした。学務課長より丁寧な説明がなされ、その後、部長、学務課長、教育総務課長補佐が質問に応じました。日南市では、既に3校の小規模特認校があるとのことですが、児童数の増加に反映されていない状況だそうです。効果的な運営について模索しているようでした。

○1月8日 第4回印旛地区教育長会議について

北総教育事務所管理課長から、人事異動や不祥事根絶についての講話があり、その後、令和7年度行事計画、管理職選考に関する受験資格検討の要望について協議しました。

○1月15日 台湾台北市立溪山小学校・平等小学校との交流会について（吾妻小）

千葉県観光物産協会からの受入れ依頼を受け、それぞれの学校から15名ほどの児童が訪問しました。

歓迎式では、吾妻小学校は校舎内の教室、特別教室や職員室などの施設、体育館や校庭の様子を、また台湾の小学校は台湾について、共に映像を用いて説明しました。

吾妻小の児童たち、台湾の児童たちが簡単な英語を用いて説明している様子に感銘を受けました。

○1月21日 災害対応図上訓練について

「成田空港付近を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生し、成田市域で最大深度6強を観測した」という設定で図上訓練が行われました。

部課長級職員及び各部統括が出席し、外部機関として自衛隊、警察、印旛地域振興事務所の方々も出席しました。

今年度は、発生から72時間後から30日までの期間の対応を訓練するもので、それぞれの部毎に課題が示され、それについて部長を中心に話し合い、策を出し関係部署との調整を図る形で行われました。

○1月22日 第17回「B&G全国サミット」について

本サミットは市長・町長、そして教育長が出席し、B&G財団の事業報告、B&G海洋センタ

一を有する2町からの事例発表、全国サミット共同宣言等が行われました。

事例発表では、ミクロ視点とマクロ視点それぞれからみる公共施設の在り方について事例が紹介されました。宮城県加美町では、「障がい者」という個に着目し、施設のバリアフリー化や新たに多目的室を増設することで、障がい者を含む多様な方々の受入れが可能になった事例でした。

北海道大樹町では、町総合基本計画の目標から見た海洋センターの立ち位置に着目し、学校に隣接する屋内温水プールとして海洋センターを移転し、生まれ変わらせた事例が発表されました。

被災地支援事業では、能登の穴水町の教育長が、B&G財団の支援により子供たちはみたことのないような遊具で遊べるようになり、プロのスポーツ選手と一緒に遊んでくれたりする中で、「子どもたちは悲しい思い出から、楽しい経験を重ね、乗り越えようとしています。能登を忘れないでください。」とお話があり、思いを馳せることを今一度認識しました。

○1月23日 成田中学校区なかよし発表会について

成田小体育館にて、成田中、成田小、八生小、豊住小、美郷台小の特別支援学級児童生徒が、学校紹介あり、クイズありとそれぞれ趣向を凝らした発表をしました。

中学生が進行を立派にこなし、小学生のお手本となっていました。地域や保護者の方も来て、子どもたちを見守ってくださいました。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：私からは、まず、成人式についてであります。運営にあられたスタッフの方々におかれましては、早朝からの準備、大変お疲れさまでした。晴天の中での開催となり、一日ずれていたら大変だったと思います。今年の成人式は、全体的に落ち着いていたと感じました。新成人代表による意見発表では、英語の先生になりたいという夢や、消防士になるという強い意志を感じることができ、とても好感が持てるものでした。とてもよい式でした。

また、先ほど、高齢者叙勲の伝達ということで、人見先生のお名前を50年ぶりにお聞きしました。私の昭栄中学校時代の恩師であり、理科の先生でサッカー部の顧問でもあり、普段は穏やかな先生でありましたが、怒ると怖い先生だったなど記憶しております。

す。お元気にお過ごしとお伺いし、うれしく感じました。

高山委員：私も成人式の感想ですが、新成人がしっかりと話を聞いている様子が印象に残っています。長時間、飽きずに出演者の方を見て話を聞くことができおり、昔の成人式とは随分変わったなと感じたところです。意見発表では、下総みどり学園時代の教え子が登壇しました。小学校4年生の時に「1／2成人式」を開催した際にもその子が発表していたことを思い出しました。あの時の子がもう二十歳になったのだなと感慨深げに聞いておりました。

片岡委員：私も成人式に参加しました。天気にも恵まれてよかったなと思いました。親御さんの観覧スペースが今年は無かったので、一緒にお祝いできればよかったと感じたところです。

また、1月16日に市町村教育委員会研究協議会がZ o o m形式で開催され、昨年に引き続き参加いたしました。研修会には沖縄から北海道まで参加があり、他の市町村の教育長や教育委員などから様々な事例が聞けるということがこの会のメリットであると感じています。研修では、不登校と部活動の地域移行の2つのテーマで意見交換がされました。1点目の不登校の問題では、ますます増加する不登校児童生徒にどう支援していくのか、どの市町も課題となっており、生駒市では、いつ来てもよいという居場所づくりをしているとのことでした。成田でも、全く登校できない子や登校渋り、保健室登校など、様々な形態があり、これらの子どもたち全員を「ふれあいる一む21」で支援するには収まらないと思います。学校に登校しようとしても体質などの様々な理由で、時間や服装が定まらないお子さんもおりますので、登校できた子どもたちに対しては、現場先生方の柔軟な対応をお願いしたいと思います。2点目の部活動の地域移行では、成田市では各学校1クラブになったと伺っておりますが、他の市町ではやっと1クラブできたとか、2つ3つできたというお話や予算が厳しいというお話をお聞きまして、成田は恵まれているなと感じたところです。地域移行の予算も全国で割るととても足りる額ではなく、国は本当にやる気があるのかと怒っている方もおりました。

た。先生方も部活動をやりたい先生と手放したい先生もおりますので、そこをどう考えていくか、地域移行するということは、すぐにできることではないことを進めているのだなと実感したところです。

日暮教育長：ありがとうございます。部活動については、次回詳しく説明させていただく時間を設けることとしますので、よろしくお願いします。

それと、成人式の保護者観覧スペースについて、野村生涯学習課長からお願いします。

野村生涯学習課長：観覧フロアにつきましては、今年は会場が工事中であり、式典会場だけは空港会社のご配慮により、何とか間に合わせていただきましたが、観覧フロアについては、引き続き工事中のため、立ち入ることができませんでした。観覧スペースが取れない旨につきましては、事前に広報やSNS、通知書でもお知らせするとともに、当日も現地に張り紙をするなど、丁寧な対応をさせていただいたところでございます。

岡本委員：私も成人式に出席させていただきました。ただいまのお話の関連となりますが、ライブ配信とかの方法も検討してもよかったのかなと思いました。

野村生涯学習課長：当日の様子につきましては、ユーチューブでの録画配信をさせていただく予定です。

岡本委員：録画配信を知らない方もおられると思いますので、今後も周知をお願いします。

また、客室乗務員の方のお話も面白い内容でした。そこで考えたのですが、成田も空港関連業種で働き手が不足しているとお聞きします。新成人もそろそろ就職を意識する年齢となると思いますので、成田や空港での仕事紹介など、ちょっとした案内ができたりすると成田がもっと元気になるのかなと感じたところです。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第1号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。

《これより非公開》

議案第1号「成田市就学援助費支給規則の一部改正について」

井上学務課長：就学援助費の制度は、学校教育法第19条の規定により、経済的な理由によって就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して援助するもので、生活保護の決定を受けているときは要保護児童生徒、市で定める基準により要保護児童生徒に準ずると認められるときは準要保護児童生徒と認定し、それぞれ就学援助費を支給するものとなっております。

現行の規則上、就学援助の認定を受けた保護者は、その申請した内容に変更があったときは、事情変更届を児童生徒が所属している校長を経由して教育長に届け出なければなりません。当該保護者に住所変更等があった際には、市役所で住所変更等の手続を行った後、事情変更の届出を別途学校に対して行う必要があります。保護者に対する負担が生じております。

このことから、当該負担の軽減を図るため、事情変更届を直接、教育長に届け出ることができるようにしようとするものです。

また、令和6年12月末に、令和7年度要保護児童生徒援助費補助金の国庫補助予算単価について、卒業アルバム代等及びオンライン学習通信費を増額する予算案が示されました。

本市では、これまでも国の予算単価に合わせて準要保護児童生徒に係る就学援助費を支給していることから、国と同様に就学援助費の費目に係る支給額を増額するため、成田市就学援助費支給規則の一部を改正しようとするものです。

改正内容でございますが、事情変更の届出について、校長を経由せず直接、教育長に届け出ることができるようにいたします。

さらには、規則中の別表関係で規定しております就学援助費の費目のうち、中学校に係る「卒業アルバム代等」について、支給額を現行の8,800円から1,200円増額して10,000円とし、オンライン学習通信費を小学校中学校ともに現行の14,000円から1,000円増額し、15,000円に見直しを行います。

次に、影響額でございますが、中学校に係る「卒業アルバム代等」及び「オンライン学習通信費」の単価見直しに伴い、令和7年度当初予算案ベースで、中学校就学援助費支給事業で360,050円の増額となります。また、小学校に係る「オンライン学習通信費」の単価見直しに伴い、233,700円の増額となります。

今回の改正規則の施行日につきましては、令和7年4月1日としております。

《議案第1号に対する質疑》

岡本委員：手続きの省略化は大賛成です。今後、マイナンバー等の活用の考えがあれば教えてください。

井上学務課長：具体的な検討はしておりませんが、貴重なご意見を頂戴しましたので、庁内連携を図りながら検討していきたいと思っております。

片岡委員：事務処理のことですが、以前は手書きの領収書でないといけないとか、クレジット払いではいけないとか、そういった縛りがあったようですが、その後どうなっていますか。

井上学務課長：現在は、手書きの領収書を発行しない業者も増えてきましたので、その点は改善しております。

日暮教育長：その他、よろしいでしょうか。

特にないようですので、議案第1号「成田市就学援助費支給規則の一部改正について」を採決いたします。

本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は可決されました。

日暮教育長：ここで、井上学務課長から報告がございますので、お聞取りください。

井上学務課長：新年度に向けまして、準要保護児童生徒に係る認定基準の変更に伴う成田市就学援助費支給規則の一部改正を予定しております。詳しくは、次回の教育委員会会議定例会でお示しいたしますが、その概要をお話させていただきます。

現行、準要保護児童生徒に係る認定は、生活保護法による保護の基準により算定される生活扶助、教育扶助及び住宅扶助の合計額に、1.3を係数として乗じて得た額と、学校給食費の実費相当額を合算した額が世帯員全員の収入額等を上回る場合に行っております。

新年度に向けまして、この準要保護児童生徒に係る認定基準の係数を1.3倍から1.5倍に引き上げるというものでございます。

日暮教育長：ただ今の報告に関し、ご質問等はございますか。

片岡委員：もう少し詳しく教えていただけますか。

井上学務課長：認定基準に用いる係数は、本規則を制定した平成19年から変わっておらず、一方で消費者物価指数は上昇傾向にあります。また、給与所得等の収入額等の増加が消費者物価指数の増加に追いついていないため、名目賃金が上昇しているにもかかわらず、消費者物価指数を反映した実質賃金は減少傾向にあります。

そのため、名目賃金をベースに準要保護児童生徒に係る認定の収入額等とする認定基準においては、世帯支出の増加により世帯が実質的に生活困窮状態にあるにもかかわらず、収入額等が認定となる基準額を上回ってしまうことから、準要保護児童生徒の認定を受けることができない状況にあります。

このようなことから、昨今の物価高騰等の影響も踏まえて、準要保護児童生徒に係る認定となる基準額における係数を引き上げ、就学援助の対象世帯を拡大することにより、実質賃金の減少に伴い生活に困窮している子育て世帯における保護者の教育費の負担軽減を図ろうとするものでございます。

岡本委員：新たに認められる世帯は何世帯になりますか。

井上学務課長：世帯構成により認定となる基準額が変わりますので、一概にお示しすることは難しい状況にあります。これは、これまでの却下の数から想定するよりも、制度の改正により新たな申請が増えることも見込まれるためです。参考ですが、これまで却下されていた世帯で、小学校34世帯、中学校19世帯が新たに認められることとなります。

岡本委員：一意見ですが、これまでの1.3で補助対象となっていた方と、1.5に変わったことで補助対象となった方で差をつけてもよいのではないかと感じたところです。

日暮教育長：詳細につきましては、次回の会議で取り上げさせていただきますので、よろしくお願いたします。

(2) 報告事項

報告第1号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により報告する。

《これより非公開》

報告第1号「訴訟の経過について」

《非公開を解く》

報告第2号「第3次成田市生涯学習推進計画の進捗状況について」

野村生涯学習課長：資料「第3次成田市生涯学習推進計画進捗状況一覧」をご覧ください。

施策1「学びのきっかけとなる機会の提供」を実現していくための、具体的な主な実施事業の内容と実績となります。

1 ページ目中段をご覧ください。

①「各種講座等の開催」の3「明治大学・成田社会人大学運営事業」でございいますが、高まる市民の学習ニーズに対応するため、明治大学と連携し、18歳以上を対象とする講座を開設しております。令和5年度は、国際社会課程・現代時事課程の2課程で、それぞれ10回の講義を開催しました。参加実績は、国際社会40人、現代時事24人で合計64人でした。また、コロナ禍で休止していた2課程合同のフィールドワークも令和5年度より再開しております。

続きまして、2ページ目の下段、③「成田の歴史文化を学ぶ機会の充実」の1「文化財保護啓発事業」をご覧ください。

成田の歴史や文化財に関する講演等の開催を行うとともに、文化財を認知していただくための啓発用印刷物の作成等を行っております。コロナ禍で令和4年度まで休止しておりました史跡めぐり、博物館めぐり、歴史講演会を再開し、参加者数は延べ282人でした。

続きまして、3ページの上段をご覧ください。

施策2「学校・家庭・地域が連携した体制の構築」を実現していくための、具体的な主な実施事業の内容と実績となります。①「地域ぐるみで子ども育む

体制づくり」の1の「放課後子ども教室推進事業」をご覧ください。放課後や週末等に小学校の余裕教室や校庭等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域や国際医療福祉大学などの参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を行っております。実績値は、その活動に取り組んでいただくボランティア数としておりますが、令和5年度実績は1,041人となり、昨年度に比べ増加しております。コロナ前の令和元年度実績は1,167人でしたので、ボランティア活動も回復してきたと考えております。

続きまして、3ページの中段をご覧ください。

施策3「様々な体験活動の充実」を実現していくための、具体的な主な実施事業の内容と実績となります。

①「青少年の体験学習環境の整備」の1の「青少年健全育成事業」をご覧ください。地域における青少年活動を活発にし、青少年の健全育成を図るため、青少年育成活動の支援などを行っております。令和5年度は、各団体の事業として、Youngうなバレー大会や子ども会まつりなどを開催し、参加者数は2,261人と、前年度と比べ倍増しております。

続きまして、4ページの下段をご覧ください。

施策4「学んだことを生かせる機会の充実」を実現していくための、具体的な主な実施事業の内容と実績となります。こちらの施策では、学んだことを生かしていくための様々な交流活動等を展開しており、3の「文化芸術振興事業」における市民文化祭の参加実績は6,193人となり、前年度より1,000人以上増加しております。

以上が、主な事業の進捗状況となります。

続きまして、資料の最終ページ「第3次成田市生涯学習推進計画 重点目標進捗状況一覧」をご覧ください。

それぞれの施策に対して、二つまたは一つの重点目標を設定しております。

施策1の指標「学生や働く世代を対象とした生涯学習講演会の参加者数」の

令和5年度実績は、目標値の半数は超えたものの前年より微減の255人。指標「情報発信サイトのアクセス数」の実績値は15,670回と、前年度より順調に増加しております。情報発信サイトにつきましては、令和5年2月にサイトのリニューアルを行い、スマートフォンからでも閲覧しやすくなったことから、情報更新をこまめに行う団体もあり、今後もアクセス数は増加していくものと考えております。

施策2の指標「家庭教育学級参加者数」は、目標値10,700人に対して、実績値は3,931人。「学校支援のための地域コーディネーター数」の実績値は目標値の約6割となる18人でした。家庭教育学級参加者数は、目標値に大きく及びませんでした。開設学級数は前年度より大幅に増え、幼稚園・保育園21学級と小中義務教育学校31学級において開設することができました。

施策3の指標「こども体験学習セミナー参加者数」は、目標値300人に対して、実績値は203人。「体験形式の図書館講座の参加者数」の実績値は127人と、目標値の72人を大きく上回りました。図書館講座は、一般対象の講座でもワークショップ形式を取り入れ、参加者の増加につながったということです。

施策4の指標「生涯大学院生及び卒業生との連携事業参加者数」の実績値は26人。生涯大学院生が、公津の杜小学校で昔の遊びを通して交流活動を行ったものです。

このように、徐々にイベントの数や参加者数は回復してきておりますが、ほとんどの事業で目標値の達成には至りませんでした。

なお、こちらの結果につきましては、1月17日に開催されました生涯学習に関する審議会である「成田市生涯学習推進協議会」にも報告をいたしました。

《報告第2号に対する質疑》

岡本委員：全体的に参加者数が増えていることがわかりましたが、目標数には達していないという事で、これは当初設定した目標値が高すぎたということはないのでしょうか。ぜひぶん増えているのでこれでいいのではないかと思います。

野村生涯学習課長：確かに計画策定時の目標値が高めであったのかなと思います。

佐藤委員：図書館講座が増えています、何か工夫されたのでしょうか。

高仲図書館長：体験型の講座を実施するにあたり、対象者を広げたり、開催しやすい内容としたことから、結果としてこのような数値になったものと考えております。

報告第3号「令和6年度印旛地区教育委員会連絡協議会教育功労表彰者の決定について」

井上学務課長：令和7年1月10日に、「令和6年度印教連教育功労表彰者選考会議」が行われ、令和6年度の表彰者が別紙のとおり決定しましたので、ご報告します。

なお、推薦にあたりご助言をいただきましたことを踏まえ、選考候補者名簿を提出いたしました。推薦者全員の受賞となりましたことに感謝申し上げます。

《報告第3号に対する質疑》

佐藤委員：推薦した皆さんが受賞されるということによかったなと思います。

報告第4号「令和6年度成田市教育委員会奨励賞について」

川名部教育総務課長：本年度は、既に9月の教育委員会会議定例会におきまして、表彰者の報告をさせていただいておりますが、今回、新たに、資料に記載してございます、個人8名と団体1チームが全国大会への出場や、県大会最高賞に入賞した

旨、担当課を通じて連絡がありましたことから、この度、追加報告をするものでございます。

《報告第4号に対する質疑》

特になし

6. その他

特になし

7. 教育長閉会宣言